



震災の教訓、災害への備えを学ぼう

「かほく防災記者」研修生募集

宮城県の中학생対象

河北新報社は宮城県内の中学生を対象に、東日本大震災の教訓や災害



への備えを学んで発信する「かほく防災記者」の第4期研修生を募集しています。研修を通して、災害の伝承と防災の担い手の育成を目指します。7月下旬には、石巻市で夏季講習を開きます。研修は日曜午前に年4回あり、受講は無料です。

会場は仙台市青葉区五橋の河北新報社で、被災地も訪問します。実施日は5月26日、6月30日、9月29日、12月22日。夏と秋の2回、課題実践で家庭での備えに挑戦してもらいます。研修会の様子は、河北新報の紙面で紹介します。研修生には家族と一緒に災害対策や避難訓練に挑戦し、防災記者として新聞記事を書きます。



参加者が自分で見出しを考え、マイ防災新聞を作り上げた。2023年12月17日、河北新報社被災地での研修は津波と火災に見舞われた石巻市の門脇小を訪れ、当時の校長から話を聞いた。2023年6月25日

定員は10人程度。応募には保護者の同意が必要。社の記事データベースを

塩釜市塩釜二中2年 一戸さくらさん

意見の共有 安全な避難に

私は11月3日、家族4人で震災6年の地震が起き、塩釜市の中でも私の家が水道、電気、ガスが止まり、ある地域は、坂が多い。自宅から体育館への避難路もずっと下り坂。普段、体感5～6度の傾斜に慣れたので、避難するときは車に乗ったまま、体育館へ行くことにしました。避難するときは、体育館の階段を上るとき、足元を注意して、手紙を開けると、避難所として使えなくなっていました。家族で避難場所について調べ、第2、第3の避難先を決めました。

家族と避難訓練をするときは、災害発生時に、お互いにどんな行動をとるのか話し合おうとしました。家族が別々の場所でも被災したときの待ち合わせ場所を決めました。3人で離れた場所から連絡するつもりです。

揺れが収まった後、非常用持ち出し袋を持ち、頭を守るために椅子をかぶり、自宅から約1.3km離れた避難路で見かけたひびが入ったブロック

かほく防災記者が原稿を書き、見出しも考えた避難訓練の記事＝2024年2月27日の河北新報朝刊(ちょうかん)

第4期研修スケジュール

- 第1回(5月26日) 事前に家族や自分の被災体験、過去に地元で起きた自然災害を調べ、発表した自然災害を調べ、発表し合います。災害の記憶を家族と共有し、今後の備えに生かすことが目的です。
- 第2回(6月30日) 被災地を訪問し、語り部から震災前の生活、被害の様子、復興の歩みを聞き、原稿を書きます。
- 7～8月の課題実践 「防災・減災に挑戦」 「災害遺構を調べてみた」 「非常持ち出し袋を作ってみた」 などからテーマを一つ選び、夏休みに家族と取り組んでください。成果や課題について原稿も書きます。
- 高知新聞防災いのぐ特派員交流会(8月4日) 南海トラフ地震への備えを学ぶ高知の中学生記者と交流会を行います。
- 第3回(9月29日) 豪雨災害への備えの環境で、家族の行動を時系列で決めておく予定表「タイムライン」を作ります。地域のハザードマップで災害リスクを調べ、避難準備、移動開始のタイミングなどを書き込み、完成させます。
- 10～11月の課題実践 「家族と避難訓練」 自宅から最寄りの避難先まで、家族と避難訓練をしてもらいます。行きは移動時間を調べ、帰りは危険箇所や災害発生時に役立つような物、場所などをチェックします。
- 第4回(12月22日) 「家族と避難訓練」をまとめた原稿を発表した後、見出しの付け方など編集作業を教わりながら一人一人「マイ防災新聞」を完成させます。



QRコードから登録フォームにアクセスできます

無料で使えます。河北新報オンラインニュースの登録フォーム、QRコードから申し込みます。締め切りは5月6日。連絡先は河北新報社 防災・教育室022(211)1591。メールアドレスは chugaku@o.kahoku.co.jp